



歴史講座

平家・源氏？

だった平氏を特に伊勢平氏と呼び、中でも特に特正盛忠盛清盛の系統を「平家」といいます。

平安時代に平氏が台頭したとはいっても、京都で貴族となった平氏は少数派です。大多数は全国に散って地方の領主となり、武士となっていきました。

「源氏」も「藤原氏」もいりましたが、多くの平氏も従軍していたのです。

頼朝は正二位権大納言になりましたから、貴族でもありました。平家になぞらえて頼朝の一族を「源家(げんけ)」といってもよかったのかも・・・。

「平」の姓を賜り、「平高望」と名乗りました。これが初代平氏です。

その時に、平氏ばかりではややこしいので、それぞれ自分の領地の名前を「苗字」としました。

平氏が「源氏の大将」に従っているのは不思議に思えますが、それは、源平合戦というのが「源氏と平氏の戦い」だという思い込みがあるからです。本当は、源氏と平家の闘いなのです。

一方、妻であった北条政子が幕府の中心人物となりました。北条氏は「平氏」の一族であるため、平家が滅んで平氏が栄えたという面白い構図が生まれたこととなります。

「平氏」とは、その臣下に下った平氏のすべての一族を指す言

「北条」とか「三浦」一族もみんな本当は「平氏」で、「北条義時」も正式には「平義時」といいました。

「関東武士団Vs京の中央政府」と言うことなのです。

偶然の勝利はあれども、敗北は全て必然。

一方、「平家」とは、多くの平氏の中の特定の一族だけを指す言い方です。

京都鴨川東の「六波羅」という地域に広大な屋敷を築いて、平家全盛期を築いた、いわゆる「平家一門」というものです。

これと同じことが、皇族が臣籍降下した源氏にも当てはまります。

日本の歴史を彩った偉人達はいかにして敗れていったのか。その裏にはどのような原因と過ちがあったのか。

歴史講座「平家物語」を聴講していて、ふと考えたことはなかったでしょうか？

「平氏←平家」と言うのに、「源氏←源家」と言わない？

今回はそんな疑問を、稲葉友昭氏が解説します

10月22日付け源氏日報でもお伝えしているように「平」というのは、日本において皇族が臣籍降下するときの名乗る氏の一つです。第50代桓武天皇：平安京を開いた桓武天皇の曾孫にあたる高望王が

伊勢は都に近いため、その地の利を活かして徐々に都に進出して官職を得て、中央政界に食い込んでいきました。

この維衡以来の伊勢の国に

なかつたのです。

初代平氏から数えて4代目の平維衡の時に伊勢の国に下りました。

源氏は中央政界の権力争いの中で藤原氏に負け、保元・平治の乱で平家に負けたために、一族が全国に散らばって土着しました。

そのために、平清盛一家のよ

ところが、「源氏」に対して「源家」と聞くことはありません。

源氏は中央政界の権力争いの中で藤原氏に負け、保元・平治の乱で平家に負けたために、一族が全国に散らばって土着しました。

なかつたのです。

平家は京の中央政府に食い込み、権力をほしいままにしていたのです。

平家とは、武士よりむしろ貴族の家柄を表していた意味合いもあります。

源平合戦で、源頼朝の挙兵に従った関東武士の中には、いわゆる「平氏」も大勢いま

平氏が「源氏の大将」に従っているのは不思議に思えますが、それは、源平合戦というのが「源氏と平氏の戦い」だという思い込みがあるからです。本当は、源氏と平家の闘いなのです。

戦勝後、源頼朝は鎌倉殿として、武士たちのトップとなりました。

そのため、苗字を名乗らず、「源頼朝」のままです。

頼朝は正二位権大納言になりましたから、貴族でもありました。

戦いへと進めたいと思います。今後とも目が離せない場面を、熱く語ってまいりますので、毎月第3木曜日は六条公民館へ足を運んでいただきたい

残すところ11月、12月、1月の3回となりました。